



池田市

外国にルーツのある
子どもたちの居場所事業

TBY

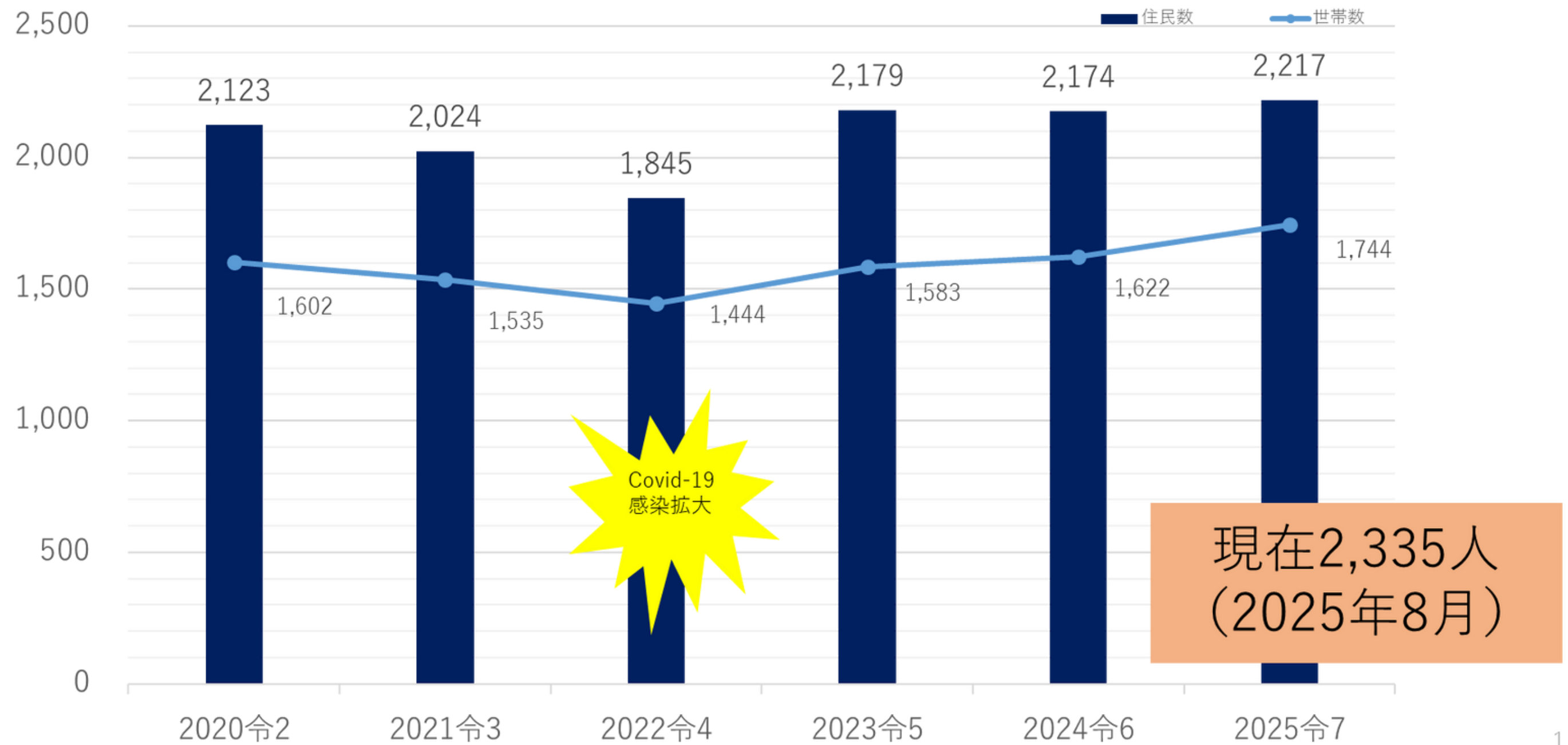
-To Be yourself-

2025/12/26

池田市ダイバーシティセンター
大阪府教育センター研究フォーラム

在住外国人数の推移

2020年～2025年（4月1日現在）



国籍・在留資格（上位5位）

1位	中国	491人
2位	韓国・朝鮮	487人
3位	ベトナム	353人
4位	ネパール	259人
5位	インドネシア	176人

池田市の特徴

- ・ 歴史的背景を持つ在日コリアン、中国人、大阪大学などへの留学生が多数在住
- ・ ダイハツ本社への転勤により家族で2～3年暮らすインドネシア、マレーシア国籍者が、池田市ダイバーシティセンターの日本語教室を利用
- ・ 介護施設で働くアジア人をはじめ、その他の国籍者も増加している

多文化共生事業

ダイバーシティ社会推進のために

01

日本語カフェ

02

外国人ルーツを持つ
子どもの居場所事業 TBY

03

多言語相談窓口

04

人々が集い、交流や学びの
機会を持つ場を提供

多文化共生事業

ダイバーシティ社会推進のために

01

日本語カフェ

火・水・木曜日の午前
ボランティアとの日本語交流



多文化共生事業

ダイバーシティ社会推進のために

04

人々が集い、交流や学びの
機会を持つ場を提供

- ツナガリエ石橋まつり
- ボランティア養成講座
- 外国人トークイベント
- 多文化共生を考えるセミナー
- 学校への出前授業



外国にルーツのある
子どもたちの居場所事業

TBY

- To Be Yourself -

多文化共生事業

02

ダイバーシティ社会推進のために

外国人にルーツを持つ
子どもの居場所事業
TBY

土曜日午前開催



事業開始年

2016年

実施主体

池田市

対象者

外国にルーツのある小・中学生

活動拠点

ダイバーシティセンター

内容

マンツーマン、グループでの学習と交流

事業の目的

外国にルーツを持つ児童・生徒は日常会話に支障がないように見えても、学習言語の習得が十分ではない場合があり、また特有の悩みを持つケースが多い。また、日本語が話せない保護者は家庭で宿題や勉強をみることができないため、本人も、保護者も進路に不安を持つケースが報告されている。

そういった状況について、外国人市民や学校、ボランティア団体から相談を受けてきた。本事業を実施することにより、日本語を母語としない児童・生徒が、気軽に集まり、友人を作り、宿題や日本語の支援が受けられるような場所を作ることで、楽しい学校生活が送れるよう、サポートする場とする。

(2016年度事業企画書)

TBYが大切にしていること

- ・ 保護者との対話のなかで、家庭では母語による対話を大切にしよう伝えること。
- ・ 子どもがありのままにいられる場所であれるよう、母語の名前で呼び合うこと。
- ・ 子どもが安心・安全に居られる場所をつくること。
- ・ 年に数回は、保護者、スタッフも一緒にFun Dayを開催し、つながりを大切にすること。

こどもたち（2025年度）

- 小5～中学1年生 8名
- 新規、数年～5年以上の在籍者
- 参加のきっかけ
- TBYで見せる顔
- 教室の雰囲気
- ツナガリエ石橋まつり



スタッフたち2025年度



- 協力金として1回1,000円＋交通費
- 元小学校教師、塾講師、大学生
- 登録者数6名
- 子どものペースに合わせた学習
- IDC職員の間わり

池田市ダイバーシティセンター

〒563-0032 池田市石橋1丁目23-6 ツナガリエ石橋5階



072-735-7588



idc@city.ikeda.osaka.jp



<https://www.city.ikeda.osaka.jp/index.html>

